

## カンサス州：小麦作柄と気象状況

2002年7月23日

カンサス州東中央地区にて多少の降雨があったが、他の地区では全く降雨は無かった。全州平均の農作業可能日数は6.8日であった。気温は州西部及び南中央地区の最高気温は100～107度Fであった。他の地区の最高気温は96～100度であった。土壌水分の状況は今後の2003年産冬小麦の播種に影響を及ぼす。降水が無かった事に加え高温続きであり、土壌水分の状況は悪化している。乾燥・高温は澱粉蓄積の時期にあるコーンに最悪な条件であり、既に青刈りし飼料にされるコーンも発生している。小麦の不作に加え飼料穀物の不作が十分に予測され、穀物市場は今後更に荒れ模様と予想されている。

2002年7月21日現在：

土壌水分状況：

Topsoil

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year
Very Short (%)	55	37	87	76	56	49	62	37	3	51	36	28
Short (%)	36	48	13	24	38	45	29	52	43	36	38	44
Adequate (%)	9	15	0	0	6	6	9	11	53	13	26	23
Surplus (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5

Subsoil

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year
Very Short (%)	59	55	94	59	47	37	25	27	0	44	33	13
Short (%)	34	35	6	35	36	42	56	57	34	37	37	46
Adequate (%)	7	10	0	6	16	21	19	16	66	19	29	39
Surplus (%)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2

(Week とは Last week を意味し、Year とは Last year を意味する)

Source：Kansas Agricultural Statistics Service

硬質赤色冬小麦 (Hard Red Winter wheat) の主産地であるカンサス州西南地区を始め、州の西部並びに中央南部では、昨年秋からの降水不足に加え乳熟期に入ってから急激な高温が単位収量を悪くする大きな原因となった。先週の報告書にも記した通り、全地域で2001年産小麦より容積重、1000粒重等が低い。この事は製粉歩留まりが悪い事を意味する。一方、蛋白質量は昨年より高き結果となっている。